

東海旅客鉄道労働組合

東京本部 〒108-0075 東京都港区港南2-1-95 JR東海品川ビル3F (03)6718-1251
名古屋本部 〒453-0002 名古屋市中村区名駅1-1-13 (052)586-1327

JR東海ユニオン

(1部20円)組合員の職務料に含む

発行人 鎌田 隆司 / 編集人 伊藤 大輔

<https://jrtu.jp>

第35回定期大会を開催し、2026年度運動方針を決定



「UNION FUTURE」⇒2027

9年目の取り組みがスタート、

最終盤に差し掛かる今、積み上げた運動を

総仕上げへ前進させていこう、

7月3日、ホテルアソシア豊橋において「第35回定期大会」を開催した。各議案の提起、質疑答弁を経て、賛成多数により全議案が承認された。今回決定した運動方針のもと、組合員全員参加で安全の原点に立ち、組織の変化を強化につなげ、さらなる発展をめざしていこう。中期目標「UNION FUTURE」⇒2027に基づき、取組みは9年目に入り、総仕上げに向けた重要な一年が新たにスタートした。

鎌田中央執行委員長あいさつ(要旨)



この猛暑の中、今の瞬間も安全・安定輸送、そして安全安心な地域医療の提供をはじめ、それぞれの職務を全うしている組合員、そして支え続けているご家族に、心からの感謝を申し上げたい。また、組合活動においても日々組合員と向き合い、共に悩み、共に考え、最善策を導くべく取り組んでいることに、改めて敬意を表したい。

さて、私たちを取り巻く環境は、目まぐるしく変化し、少子高齢化による人手不足、物価高騰による生活負担、不安定な国際情勢に伴う資材確保やエネルギーコストへの懸念など、複雑かつ先行き不透明な状況に直面している。

そのような中、新たな執行体制で臨んだこの一年、私たちは「組織の変化を強化に繋げる」ことをキーワードに、組合員との対話を

重ねながら、まさにトライ＆エラーを繰り返し、これまでにない取り組みにも挑戦してきた。「年末手当交渉」「春闘交渉」では、組合員の努力に報いる要求水準を追求するとともに、春闘における要求方式のあり方についても議論を深めた。直近では、「36協定」について、長時間労働の要因や業務実態の正確な把握を妨げているのではないかと、という課題を踏まえ、有効期間の見直しを含め、より実効性のある取り組みの定着を進めてきた。さらに、中央新幹線建設についても、総工事費の見直しや中央新幹線推進本部の体制強化、静岡県知事による静岡工区着工容認に関する報道など、大きなターニングポイントを迎えており、新たなフェーズに入りつつある。

働き方や価値観が変わり、組合員のニーズも多様化する中、その変化を単なる課題とせず、対話を重ねることでむしろ組織強化の武器としていく。育児や介護を支える仲間、若い仲間、ベテラン、それぞれの声をすくい上げ、一つの力に変えていくことが不可欠である。

最後に、極めて重い事実に触れなければならない。グループ会社・関連会社を含め、死亡労災が4年連続で発生し、昨年の大会以降のこの一年間でも5名もの仲間が命を落とした。私たち労働組合は、この事実に対し「傍観者」であってはならない。会社・原因究明を求め、安全管理の不備を追及すると同時に、私たち自身も「仲間を救うことが

第35回 定期大会スローガン



「UNION FUTURE」⇒2027の総仕上げへ

安全の原点に立ち 組織の変化を強化につなげ

将来にわたる組合員・家族の幸せを実現しよう！